

求めよ、そうすればクリスマス・プレゼント

早瀬 和人

奨励者紹介〔はやせ・かずと〕

日本キリスト教団宇治教会牧師

宇治教会附属愛児園園長

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだけれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

（マタイによる福音書 7章7—12 節）

「求めなさい。そうすれば、与えられる」

有名な言葉です。私は教会附属の幼稚園や教会学校に通っていたこともあり、子どもの頃から聞かされていた聖書の御言葉です。でも、分かりやすいようにどこか分かったような分からないような、そんな悩ましい御言葉として読んできました。「求めなさい。そうすれば与えられる」とあるので、祈って祈って求め続けていますよ。でも、与えられない。（どうして?）と思うことがあるものです。だからと言って、「こんな嘘っぱちや! 現実味のない言葉やんか」と吐き捨てるほどの勇氣はありません。

そこで今日は、求めて祈り続ければ必ず与えられる。ちゃんと神様は聞いてくださって、間違いなく与えてくださる。マタイによる福音書6章8節で「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要な物をご存じなのだ」と弟子たちに語ったイエス様の教えと重ねて聴いていくことで、「なんだ、そういうことだったのか」と気づかされたことをお話しさせてください。

「求めなさい。そうすれば、与えられる」。これを

「求めなさい…。そ～すれ～ば～、そ～すれ～ば～」

（もしかしたら随分と時間が経過して、自分でも願い祈ったことを忘れてしまったような時に）

「与えられる。あなたの願いを聞き入れよう。さあ、受け取るがいい」

というニュアンスで読んだらいいのかもしれない、と気づいたのです。

つまり、「願い求める。そうすれば」の「そうすれば」の部分には、人があれこれ策を練り知恵を絞り、何とかして手に入れよう、問題解決しようと願う時の時間感覚とは異なる、「神様の時間」が流れているということ。このことに気づけるかどうか問われているのではないのでしょうか。

それから、もう一つ見つめておきたいことがあります。

（あれ?あの時、必死に祈り求めていたものは、もしかして、え?ま、まさかこれだったの?）ということがあられるかもしれない。このことに気づけるかどうか問われているのではないか、ということです。

聖書には、「求めなさい。そうすれば、『求めたものがそのまま与えられる』」とは書かれていません。神様は、何を求めているのかしっかりと聞いてくださった上で、神様の時間の中で、その人に必要なものを与えてくださるのでしょう。この御言葉の理解のややこしさは、ここにあるように思いました。

「そうすれば」に気づく

2021年10月10日、日曜日。「野本真也先生が亡くなられたのよ」と、その日の礼拝後、野本先生と学生時代より親しくされていた教会員から告げられました。野本先生は、私が神学部の学生だった今から30数年以上前に、神学部長をされていた恩師でした。そして、このチャペル・アワーの準備をしながら、野本先生との会話を思い出していました。

大学院を出る前のクリスマス頃でしょうか。

「早瀬君は、来年どうするの？」

「臨海牧会やカウンセリングのことをもう少し勉強したいし、もう一年、京都に残って考えるつもりです」

「そうか。分かった」と野本先生。

そして、年が明けた1月のある日。

「早瀬君、君にぴったりの教会を紹介しよう。大丈夫、赴任してからでも君のやりたいことはできるから」
そんな会話を交わした記憶が甦ってきたのです。

願い求めていたものとは異なる道を紹介されて随分と悩みましたが、その道を進み、今に至っています。1991年のことですから、ちょうど30年前です。振り返りながら分かってきました。（ああ、そういうことだったのか。ここにこそ、『そうすれば、与えられる』とイエス様が語られた『そうすれば』の時間の流れ、御心の秘密が隠されていたのだ）ということ野本先生の逝去の報を通して、改めて気づかされたのでした。

自分自身の今日までの歩みを振り返ってみて「なんだ、そういうことだったのね。なるほど」と気づくことがあります。これは心に余裕がないと、なかなか掴みにくいものなのかもしれません。でも、この部分を感じようと、見えない神様の働きかけを意識することはとても大事だと信じます。人間の時間とは異なる神様の時間があって、その中で人は生かされ、動かされ、用いられていく。皆さんは、感じたこと、意識したことはあるでしょうか？

見つめていますか、神様の時間

私の働き場には、教会附属の幼児施設があります。保護者の方々に対して、「子どもの成長、そこに私たち保育者は『神様の時間』を重ねながら保育の業に当たっています」と語ることがあります。そして年

度初めの頃に、しばしば高俊明牧師（台湾基督教長老教会）による「サポテンと毛虫」という詩を紹介しています。その内容は、

わたしは求めた

美しい花束を

しかし 神さまは とげだらけのサポテンをくださった

と始まる詩です。更に愛らしい胡蝶を求めるとゾツとする毛虫が与えられた。これに嘆き悲しむ作者ですが、忘れた頃にサボテンが花を咲かせ毛虫も春風を舞う蝶となっていくのに気づきます。そして最後に、「すばらしい神さまの御計画」としたためるのです。

願いがなかなか叶わない。祈りがなかなか聞かれない。

こんなことが続くについつい、(聖書に書いてあること嘘っぱちや。キリスト教にご利益ないわ)と嘆いてしまうことがあるかもしれません。そもそも人間は、目に見えて即効性のあるものを期待するもの。であればこそそんな時には、この「サボテンと毛虫」を読んでみようではありませんか。神様は求めるものをちゃんと分かっている、時間をかけてでも必ずや与えてくださいます。そうやって人を救いへと導いてくださる、ということを確認しましょう。

ところで、今さらって使った言葉があります。「救い」という言葉です。与えられた聖書箇所には出てきませんが、(あ、この言葉が隠されているような...)と気づきました。

求めなさい。そうすれば〇〇が与えられる。

探しなさい。そうすれば〇〇が...

門を叩きなさい。そうすれば〇〇が...

聖書には「〇〇が」という言葉はあえて書かれていません。でもここに「救い」という言葉を補ってみる。

「求めなさい。そうすれば『救い』が与えられる」と。もちろん〇〇の部分は「救い」でもいいし、また他の言葉「安心」「居場所」とかでもいい、各々考えて補ってみてください。

ここでもう一つ詩(祈りの言葉)を紹介します。

「A CREED FOR THOSE WHO HAVE SUFFERED」

(ニューヨーク大学リハビリテーション研究所内の壁に刻まれた作者不詳の言葉だと言われています)

健康を求めた。が、病弱が与えられた。

富を求めた。が、貧困が与えられた。

賞賛を得ようと権力を求めた。が、神の御前にひざまずくようにと弱さを授かった。

と、このようにいろいろな言葉が続きます。前述の「サボテンと毛虫」に通じるものを感じますよね。ぜひ、この詩の原詩を調べて和訳してみてください。

あなたにぴったりのクリスマス・プレゼント

最後になりましたが、メッセージの題を、秋真っ只中なのに「求めよ。そうすればクリスマス・プレゼント」とつけました。

約2000年前のイスラエル。人々は救い主を求めていた。白馬に乗ってやって来て、自分たちをローマ帝国の植民地から解放してくれる力強い民族的指導者=救世主・メシアの到来を。なおかつ、目にはっきり見える即効性のあるオールマイティな存在を。しかし、神様から与えられたのは、弱々しく武器など持たない赤ん坊イエスでした。誰からも顧みられず、貧しく旅する夫婦のもとで生まれた幼子。それが神様からの「クリスマス・プレゼント」だったのです。

時は流れ、今から 50 年ほど昔の出来事です。少年Hはサンタさんにお手紙を書きました。

「サンタさん。去年は消える魔球が投げられる野球盤がほしいってお願いしたけど、『やかまし村』でした。願いは叶いませんでした。今年は星野仙一の背番号 20 番のついたユニフォームをください」

12 月 25 日の朝。

「サンタさんからのプレゼント何やった？」と親は白々しく話しかけてきます。

「今年も『²やかまし村』シリーズだったのね。リンドグレーンの本が一冊ずつ増えていってよかったね」

「違うわ!こんなお願いしてないわ」

「でも、サンタさんはきっとこれが君にぴったりのプレゼントだと思ったんだよ」

中日ドラゴンズのユニフォームが欲しかったけれど『やかまし村の春・夏・秋・冬』をクリスマス・プレゼントにもらった少年は、今や絵本好きになり、幼稚園の園長をしています。

1 年半ほど前に、NHKラジオ「³宗教の時間」だったと記憶していますが、神学部の小原克博先生が僧侶の方との対談番組で、

「信仰は常時に養い、非常時にものを言うもの。日常の祈りが非常時の信仰を生む」と語っておられたのを覚えています。

「求めなさい。探しなさい。叩きなさい」と聖書にあるように、たとえ自分自身は「今すぐ欲しいものがないなあ」と、モノに溢れた時代の中で満たされた生活を送っていたとしても、祈り求め続けることを大事にしないといけない、と教えられたのでした。

また再び、コロナ禍で体験したような危機的状況が訪れるかもしれません。それゆえに、「日常の祈り」が大きな生きる力となることを信じます。求め祈り続ける生活を怠ることのないよう、生きていきたいのです。

「求める。探す。叩く。」

神様はその祈りを聴いてくださっていますので、必ず思わぬ形で、

「あなたに必要なものを贈ろう!」

まさにクリスマスプレゼントが与えられるように、私を生かし、そして誰かと共に生きるために必要な「君にぴったりのなにか」を与えてくださるはずです。

[注]

- 1 高俊明『高俊明詩集 サボテンと毛虫』教文館 1995年
- 2 『やかまし村の春・夏・秋・冬』(大塚勇三訳 岩波書店 1965年)をはじめとした、アストリッド・リンドグレーンによる児童文学作品のシリーズ。
- 3 NHKラジオ第2放送『宗教の時間 選「疫病が世を覆った時代に」』初回放送 2020年4月5日